



林業福島

No. **689**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



1

2022

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 真剣な眼差し



県民みんなで創り上げる福島の未来

福島県知事 内堀 雅雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、県民の皆様への命と健康を守るため、感染症対策に総力を挙げて取り組んだ一年でした。そのような中、東京二〇二〇オリンピック・パラリンピックの開催を始め、全国新酒鑑評会での金賞受賞数八回連続日本一、トップブランド米「福、笑い」のデビューなど、明るい話題も数多くありました。

また、震災と原発事故から十年が経過し、この間、県民の皆様の懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、避難指示の解除や生活環境の整備が進み、昨年末には、葛尾村や大熊町の帰還困難区域の一部において準備宿泊が開始されたほか、福島イノベーション・コースト構想の進展、復興支援道路である相馬・福島道路の全線開通など、復興に向けた取組が着実に前進しております。

一方で、複合災害からの復興はまだ途上にあり、昨年政府が決定した「ALPS処理水の処分に関する基本方針」については、様々な懸念が示されています。県といたしましては、喫緊の課題である新型感染症対策はもとより、引き続き、原子力災害に伴う複雑で困難な課題の解決に努めるとともに、地方創生・人口減少対策などに全力で取り組んでまいります。

まず、新型感染症対策としましては、引き続き、県民の皆様に対し、基本的な感染防止対策の徹底をお願いするとともに、医療提供体制の充実・強化を図り、深刻な影響を受けている地域経済の再生・活性化にもしっかりと取り組んでまいります。

次に、避難地域の復興・再生につきましては、被災者の生活再建と産業・生業の再生を始め、廃炉と汚染水・処理水対策、帰還困難区域の復興・再生、風評と風化の問題など、現場の声にしっかりと耳を傾けながら、取組を進めてまいります。

また、新型感染症の影響により心身の健康状態の悪化が懸念されることから、健康増進に向けた取組を進め、全国に誇れる健康長寿県を目指してまいります。

さらに、価値観の変化や地方移住への関心の高まりを的確に捉えながら、地域資源を活用した、福島ならではの地方創生・人口減少対策を進めてまいります。

今年四月には、新たな福島県総合計画がスタートします。この計画の下、県民の皆様と力を合わせながら、目標を一つ一つ実現してまいります。そして、県民の皆様お一人一人が希望を持って暮らすことのできる未来を創るため、これからも果敢に挑戦を続けてまいります。今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

県民みんなで創り上げる福島の未来

福島県知事 内堀 雅雄…………… 1

森林・林業の復興に向けて国へ緊急要望、実現へ…………… 2

新春特集

林業アカデミーふくしまへ寄せる期待…………… 3～4

女性に向けたイベント「木とともに暮らす、楽しむ～南会津の林地師文化見学と木を巡る活動のお話、ヨガ体験～」を開催しました…………… 5

第6回福島県きのご料理コンクールを開催…………… 6

福島森林・林業再生に向けたシンポジウム「福島の森と木の親子体験オンライン教室2021」の開催…………… 7

普及指導員通信…………… 8

森林管理署メモ…………… 9

公社だより…………… 10

木の文化を育む③…………… 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば・お知らせコーナー…………… 13

森林・林業の復興に向けて 国へ緊急要望、実現へ

福島県林業会議

県内の森林・林業関係十団体で構成する福島県林業会議は、令和三年十一月二十九日、東日本大震災からの森林・林業の再生に向け、今年度スタートした「第二期復興・創生期間」においても必要な予算を確保するよう、復興庁と林野庁に要望しました。

予算獲得に全力で取り組む旨発言いただきました。

十二月二十四日に閣議決定された令和四年度政府予算案に要望内容が盛り込まれるなど、要望の具現化が着実に進んでいます。

同会議はこれまでも復興・創生に係る新たな課題について継続して取り組めるよう要望活動を展開しており、今回、新年度の予算編成に向けて、ふくしま森林再生事業の現行の対象地域全域での推進、県産材の放射性物質対策の継続、きのこ原木確保のため広葉樹林再生事業の円滑な実施と予算の確保、海岸防災林造成事業の予算確保や維持管理のための財政支援などを要請しました。

西銘恒三郎復興大臣（富樫博之副大臣が同席）、天羽隆林野庁長官とともに、要請を踏まえ、



復興庁にて、左から田子英司県森林組合連合会長、西銘恒三郎復興大臣、富樫博之復興副大臣、鈴木裕一県木材協同組合連合会長

ふくしまの森林・林業の復興に向けた緊急要望項目

- 1 第2期復興・創生期間における予算の確保
復興の進捗により生じる新たな課題への対応など必要な予算の確保と財源措置の継続
- 2 放射性物質対策と森林整備等の推進
 - (1) 「ふくしま森林再生事業」をはじめとした各種復興施策に係る予算の確保
 - (2) きのこ原木の安定供給に向けた広葉樹林の伐採・更新等による円滑な事業の実施と予算の確保
 - (3) 森林内における放射性物質の実態把握や林業再生に向けた実証等の継続
- 3 林業・木材産業の再生に向けた支援
 - (1) 丸太、製材品の放射性物質濃度調査、木材の安全確保に要する検査、樹皮の処理等、放射性対策の継続支援
 - (2) きのこ原木、おが粉など生産資材の調達を支援する事業の継続
 - (3) 山菜・野生きのこのモニタリングや出荷制限解除に向けた取組の継続及び非破壊検査による出荷再開の取組の拡充
- 4 海岸防災林造成事業に係る予算の確保
海岸防災林造成事業完了までの事業費の確保及び成林するまでの維持管理に係る財政的支援



林野庁にて、中央が天羽隆林野庁長官

「林業アカデミーふくしま」本格開講

福島県林業振興課

福島県の林業の未来を担う^ま人を育成するための研修講座

「林業アカデミーふくしま」が

本年四月、本格開講します!!

県では、開講に向けて、昨年四月より先行して短期研修講座を開講し、市町村林務担当職員や林業従事者を対象に林業に関する基礎研修や埴町実習フィールドでの実践研修を実施するほか、研修カリキュラムやシラバス等については、「林業アカデミーふくしま運営会議」において、検討を重ねてまいりました。

さらに、アカデミーへの理解を深め、研修をより良いものとするため、十一月には、市町村・林業事業者等を対象に県内各部署で説明会を開催し、短期研修計画に関する要望、林業事業者等の皆様からイン

ターンシップ等に関するご意見や、研修生への期待の声をいただきましたが、開講が近づくと林業アカデミーに対し、期待の声がより一層高まっています。

と感じております。

研修施設については、昨年十二月一日に、施設工事の無事故と、この学び舎から本県の林業を担う多くの^ま人が誕生することを祈願し、安全祈願祭及び起工式を執り行い、本年八月の完成に向けて、現在、整備を進めております。

本年四月より記念すべき第一期生を迎え、森林・林業に関する知識と技術の習得や資格取得のほか、森林三次元計測システム(OWL)、ハーベスタシミュレーターなど、最新のICT機器等を活用し、実践力を有する人材を育成してまいりますので、引き続き森林・林業関係者の皆様の御協力をお願いいたします。



安全祈願祭の様子



研修施設イメージ図

新春特集

林業アカデミーふくしまへ寄せる期待

総力をあげ、福島県の森林再生を

いわき市森林組合 代表理事組合長

田子英司



田子代表理事組合長

事に大変期待を寄せています。

既に始まっている短期研修においては、林業関係者のみならず、行政側の方々も林業を学び、今後行われる長期研修においては、我々林業関係者も講師を務め、インターンシップにおいて研修生を受け入れることも計画されています。

長年の木材価格低迷を主因として、森林整備の不実施や伐後放置等による荒廃森林の増加が社会問題になっている昨今。

一方、国連の定めたSDGs(持続可能な開発目標)の理念が急速に普及し、加えて、国において脱炭素社会の現実に向けて、二〇五〇年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの政府方針が示されたと言う現実もあります。

そのような時期に、関係者が待ちに待った「林業アカデミーふくしま」が開講し、短期・長期の研修が本格的に開始される

現状、各市町村の林業・木材産業担当の方々には特異な分野である為に、御苦労の中で業務を担われていると推測されますが、今後、このアカデミーで学ぶ事により、少しでも理解が深まり業務の効率化が図られ、一方、林業の現場においては、研修生が訪れる事により、安全意識の再確認や新たな学びの機会になると考えます。

やがて、その卒業生が福島の現場において生き生きと活動できれば、官民挙げての総力により、森林再生が実現できるものと確信します。

林業の入り口として期待

アイパワーフォレスト株式会社 五十嵐 乃里枝

「会津自然エネルギー機構」という団体で「山学校」を始めて今年で八年になります。チェーンソーの刃研ぎから立木の伐倒までを現場の木こりに学ぶという講座です。その中で参加者からよく耳にしたのが、林業に興味があっても入り口がわからなかったというものです。農業の場合には農家の手伝いをしながら年間の作業を学ぶという例もよくありますが、林業はやりたいたいと思ってもどこで基礎を学べばいいのかわからないというのです。ましてや若い世代においては林業がなかなか職業の選択肢に上がってこないという状況です。県内全域で山林の整備が必要とされているにも関わらず、林業の担い手不足は深刻です。

そのような中で来年度から「林業アカデミーふくしま」が開講されるにあたり、林業への入口が広がることを期待するところです。一年間の研修は森林計画の立て方からチェーンソーを使つての伐倒技術、高性能林業機械の使い方まで、広範



山学校の様子

囲に林業を学ぶコースとなつていきます。一年間という限られた時間の中でこれら全てを身につけることは難しい部分もあるでしょうが、このアカデミーをきっかけに、林業を将来の職業として選択する若い世代が増えてくれることに期待しています。

「林業アカデミーふくしま」に寄せる期待

水野林業株式会社 小室 芽美

私が「林業アカデミーふくしま」に寄せる期待は、福島により良い林業を残したいという志を持つ林業家が育つことです。

林野庁や環境省の統計によると、福島県の森林面積は全国で四番目に広く、県全体の七割を占めます。森林大国日本において、上位五位以内に入るほどの自然資源を有しています。このことから、森林資源は間違いなく福島の魅力だと言うことができます。では福島の森林資源は、どのようにして魅力を高めることができるのでしょうか。私は、林業人口の増加が大きな鍵になると思います。

林業に関わる人口が増加することとは福島や日本の林業の未来に関心を持つ人が増えるということに繋がります。それぞれが、森林利用や、林業のあり方を考え、林業に関わり続けることが、福島の森林資源を守ること、その価値を高めることに繋がります。

林業に従事しようと決めたときから抱いている夢があります。「未来の福島に日本一の森づくりを残すこと」。一人ではどうしようもない壮大な夢かもしれませんが、同じ志をもつ仲間がいるのなら、実現可能だと信じていま

す。私は林業アカデミーが開講することにより福島の同じ志をもつ林業従事者たちが一つの目標に向かっていく大きな一歩になることを願っています。

日本一の森づくりとは、人を大切に、木を大切に林業だと思えます。人を大切にすることは、安全に仕事を行うこと、そして森の恩恵を受けている人々が豊かに生活できる事を意味します。

木を大切にすることはどうすると可能なのでしょうか。そのためには、樹木に関して非常に多くの経験や知識が必要で

これらの課題を解決することはとても労力を要する事です。しかし、このような人と植物を大切にする林業を続けた先、未来の福島には人に愛される場所が溢れ、人に愛される福島の森が広がっていることでしょう。



チェーンソーを使って作業する小室さん

●女性に向けたイベント
「木とともに暮らす、楽しむ」南会津の木地師文化見学
と木を巡る活動のお話、ヨガ体験」を開催しました

(公社)福島県森林・林業・緑化協会
福島県林業労働力確保支援センター

令和三年十一月二〇日(土)に、女性に向けたイベント「木とともに暮らす、楽しむ」南会津の木地師文化見学と木を巡る活動のお話、ヨガ体験」を開催しました。これは、当協会が実施する森林・林業担い手対策事業の一つとして、森林や林業に興味関心のある女性に向けてイベント等を開催するもので、おおよそ二回ほどのペースで行っております。

今回は、林業女子会@福島から提案いただき、南会津に伝わる木地師の文化等を学ぶため、豊富な資料を展示する奥会津博物館を見学したのち、南会津に魅せられ、地元の木や



奥会津博物館の見学

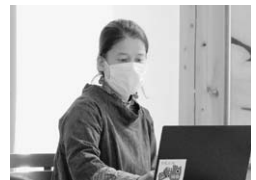


手動のろくろによる木地づくりの体験

山の素材を使って日用品を制作し、SNS等を通してその良さや楽しさを発信する女性に会いに行くバスツアーを行いました。

はじめに訪れた奥会津博物館では、豊富な知識を持つ文化財専門員の渡部康人さんに分かりやすくご説明いただきながら、木地師文化に関する展示のほか、藍染や歌舞伎等、さらに屋外に移築された馬宿・染屋・住宅を見学しました。手動のろくろによる木地づくりの体験もでき、暮らしの中で木が使われ、活かされてきた歴史を体感することができました。続いて、南会津町のほしっぱの家

に移動し、町内のカフェ・ジーママからテイクアウトしたランチセットをいただきながら昼食休憩したのち、木と関わりながら活動する女性二名のお話を伺いはじめにお話いた



MIDORIさんによるお話



airiさんによるお話

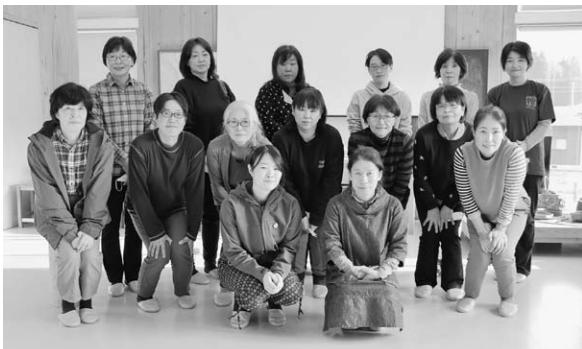
だいたMIDORIさんは、林業事業体の職員として働く傍ら、自ら所有する山から素材を採り、かごや木皿、まな板など生活に必要なものを作作りし、「山と生活をつなぐ制作」をしています。会場にも作品を持参いただき、講演では、自身のイン스타그램に掲載している写真や動画等を紹介しながら、活動の内容や伝えたい思い、仲間と結成したグループでのワークショップや挑戦中の養蜂等についてお話いただきました。

続いてお話いただいたairiさんは、下郷町地域おこし協力隊員として空き家の有効活用等を主なテーマに活動するほか、木の器づくりやヨガ講師、ウエブデザイン等、町を盛り上げ、町民と他地域の人々を繋ぐための様々な活動を行っています。講演では、自ら撮影した動画を

用いてろくろによ



インドの古典ヨガを体験！



集合写真、たくさん刺激を受けた一日でした！

る木の器づくりについて紹介いただいた後、自身が森林と向き合うきっかけや、活動に込めた思いなどについてお話いただきました。さらに、airiさんがインドで学んできた古典ヨガの体験も行いました。参加された方からは、南会津という地で森や木を愛し、熱い思いを持って活動する方々のお話や作品に感心するとともに、とても良い刺激を受けたとの感想をいただきました。また、ほしっぱの家では、(株)十八日のご協力により、南会津産のアロマオイル「クロモジ」の優しい香りを楽しむことができました。イベントに関わってくださった皆様の協力に心より感謝いたします。

第六回福島県きのこ料理コンクールを開催

(公社) 福島県森林・林業・緑化協会
福島県きのこ振興協議会

令和三年十一月二三日(火・祝)、郡山市安積総合学習センターにおいて「第六回福島県きのこ料理コンクール本審査会」を開催しました。

同コンクールは、食用きのこについての正しい知識とその利活用の普及啓発により、きのこ産業の振興を図ることを目的としており、福島県、福島県森林組合連合会、全国農業協同組合連合会福島県本部の後援をいただき開催しました。

応募総数は二二六名(うち高校生一三二名、大学生八九名、一般十三



室井つな子さん 県知事賞受賞作品
「大喝采! きのこの宴」



大八木心美さん 県知事賞受賞作品
「福島県産きのこのオーツミルクポタージュ〜食からSDGs! 耶麻高そばの実をアクセントに〜」

名)となり、二〇〇点を上回ったため、最優秀賞である県知事賞は規定により二名の選出となりました。

当協会が委嘱した五名の審査員により、十月二九日に書類による一次審査を、十一月二三日には調理の実技を伴う本審査を行い、七名の方の入賞が決定しました。

全参加者が一時間以内という規定の時間を上手に使い、作品を仕上げることが出来ました。また、仕上がった作品はきのこの味や触感の良さを上手く引き出せるよう工夫されており、彩りや盛り付けの良さも高

く評価されていました。

作品も回を重ねるごとにレベルが上がっており、同コンクールを契機に広く地域にきのこ料理を広める力にして欲しいというお話も頂きました。参加者の皆様の日々のきのこ料理への研鑽の賜物と察しますとともに、ご指導された先生方に感謝申し上げます。

入賞者のうち県知事賞を受賞した室井つな子さんと大八木心美さんは、令和四年三月九日に東京都で開催される予定の第三回きのこ料理コンクール全国大会へ福島県代表として推薦されることとなります。



第6回福島県きのこ料理コンクール

主催：(公社) 福島県森林・林業・緑化協会、福島県きのこ振興協議会
後援：福島県、福島県森林組合連合会、全国農業協同組合連合会福島県本部

受賞者の皆さま

受賞者一覧

	作品名	氏名	職業
県知事賞	大喝采! きのこの宴	室井 つな子	一般
	福島県産きのこのオーツミルクポタージュ 〜食からSDGs! 耶麻高そばの実をアクセントに〜	大八木 心 美	福島県立耶麻農業高等学校
優秀賞	福島県産きのこメドレー 巻き巻きパパッとじゃが	飯 村 菜 月	郡山女子大学
特別賞	肉厚きのこと真鯛のポワレ 〜きのこタルタル&バジルソース添え〜	永 崎 紅 亜	郡山女子大学附属高等学校
奨励賞	椎茸肉詰めみそ田楽	鈴 木 沙 耶	郡山女子大学短期大学部
	〜ふくしま花盛り〜五感で楽しむきのこ餃子	相 楽 美 咲	福島県立あさか開成高等学校
	みそ汁だけじゃない! なめこが主役のズルズルませそば	津 田 真理愛	郡山女子大学

福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム 「福島の森と木の親子体験オンライン教室2021」の開催

(一社) 全国林業改良普及協会 (事業受託団体)

平成二六年度より継続してきた林野庁の「避難指示解除区域等の林業再生に向けた普及啓発事業」シンポジウムは、昨年度に続きオンライン形式とし、令和三年十一月十三日、東京都南中野区民活動センターからライブ配信を行いました。

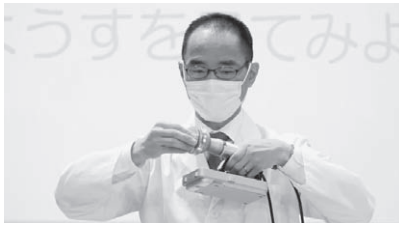
同シンポジウムは、福島の森林・

林業の再生に向けて、森林内の放射性物質の動態や林業再生に向けた技術等、これまでに得られた科学的知見直等を分かりやすく伝えるものです。

幅広い世代へ情報を発信するため、対象は親子(小学校中学年以上)とし、福島県・東京都を中心とした



ライブ配信時の全演者集合の様子



「福島の森のハカセになろう」では、空気中の放射線量や、土・葉・木材の放射線量を測定するなど、子どもたちを飽きさせない工夫をしました。
写真上：鳥取大学・北講師、写真下：森林総合研究所・篠宮講師(左)、小松講師(右)、司会を務めた2020ミス日本みどりの女神・井戸川さん(中央)



「森と木に親しもう」では、配布した全4種類の木の輪切りを丁寧に解説しました。
写真：田人林業研究会(いわき市)・緑川講師(右)、下條講師(左)



「森のめぐみ なめこ収穫」では、参加者と一緒に収穫体験を行いました。



シンポジウムの配信アーカイブ等映像コンテンツは、YouTubeで「福島のもり応援隊」で検索またはQRコードからアクセス。

全国五〇〇組の親子等約一、四〇〇人の参加を得ました。参加枠は早い時期に満員になり、募集の段階から関心の高さがうかがえました。参加者は、事前に各家庭に配布された体験キットのうち、なめこ栽培キットを約二週間育てながら、イベント当日を迎えました。

配信は、①福島の森のハカセになろう(放射線の基礎知識、森林内の放射性物質の状況について研究者が解説)、②森と木に親しもう(各家庭に配布した二種類の木の輪切りのクイズ・解説、福島県内の森林体験等の紹介)、③森のめぐみ なめこ収穫(収穫体験)の三つのプログラ

ムにより行いました。約一〇分の配信中には、参加者によるチャットを通じた質問やリアクションの書き込みが大変多くみられ、オンライン形式のイベントに慣れた参加者が増えて印象を強く感じました。

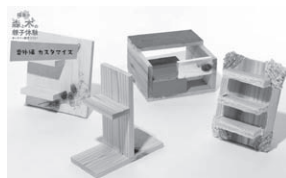
アンケートでは、福島県内の参加者から、「学校で放射線のことには習ったけど、今日はもっと分かりやすく楽しかった」、「きのこは嫌いだけど、頑張って食べてみようと思っただ」、「子にとっては未知への足がかり、大人にとっては知識の再確認で有意義だった」といったコメントをいただき、福島の実情、森のことを広く知ってもらう機会となりました。

また、福島県外の参加者からは「森の中の放射性物質の説明は図があつて分かりやすかった」といったコメントの他、「福島が身近に感じられて、行きたくなった」、「福島県

に絶対行ってみたいね、スーパード福島の食べ物を探したいねと子どもと話した」などの福島を応援する声がありました。

配信終了後は、親子で体験キットによる木工品制作に挑戦し、端材の活用を通して、木の特長や魅力などを楽しみながら学んでいただくとともに、昨年度開設したYouTubeの「福島のもり応援隊」において、「端材であそぼう」などの映像コンテンツを充実させていきます。

最後になりましたが、福島県はもちろん、郡山市と中野区には市区内の全小学校に告知チラシを配布いただくなど、シンポジウムの実施にあたり多大なご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。



双葉地方における 木材利用の推進について

富岡林業指導所

林業普及指導員 小野田 義 宏

1 はじめに

管内の森林は、東日本大震災から10年が経過した現在も放射性物質の影響により広範囲に立ち入りが制限されていますが、段階的な避難指示の解除により、森林での営林活動が可能となる箇所も増えてきており、令和3年度現在、ふくしま森林再生事業については、大熊町及び双葉町をのぞく4町2村で取り組み、令和2年度の森林整備実績は約277haとなっています。

また、木材を利用する施設についても、浪江町に福島イノベーション・コースト構想に位置づけられた集成材工場、川内村で稼働を始めたチップ工場など整備が進んでおり、これらの施設への木材供給が当地方での木材利用促進に係る重要なポイントととらえ、手始めに集成材工場への木材受入の検討を進めた取り組みを紹介します。

2 取組内容

避難指示が解除された区域であっても間伐等の森林整備により生産された木材の樹皮の放射性物質濃度が、県が示す伐採木の搬出に関する指針の数値(6,400Bq/kg)に近い値を示す木材もあり、これまでに受入を不安視する事業者等も見られたことから、予め当地方の木材を利用する加工業者及び木材を安定的に供給する素材生産者の調整を図りました。

(1) 木材利用に向けた地元集成材工場との調整検討

令和2年度より、町と管理運営者と打合せを行い、利用する木材の規格、量、放射性物質濃度に関する受入の考え方などの情報を整理しながら打合せを行い、協議を重ねました。

(2) 木材の安定供給に向けた素材生産事業者等との調整検討

地元集成材工場との調整を踏まえて、相双地方の行政機関や素材生産事業者向けに木材の安定調達にかかる説明会を開催し、利用する素材の規格や量、ふくしま森林再生事業で生産される木材の受入も可能である事を説明しました。

素材生産事業者からは、当地方で生産される木材の受入に対する歓迎の声が多くあり、納入数量や価格等、より具体的な質問に及ぶなど、供給に向けて前向きに検討していただくことができました。

3 おわりに

これらの取組について、集成材工場の管理運営者からは、安定的な木材の供給につながり、施設の運営面において大変ありがたいとの声がありました。

放射性物質による森林の汚染は、林業の停滞、森林整備の遅れを生じさせました。その状況から適切な森林整備を推進させるためには、生産された木材が利用される仕組み作りが必要であることが改めて認識できたので、今後は、当地方だけでなく県全体の素材生産業の活性化にもつながっていくよう、管内の加工事業者と利用に向けた話し合いを継続していきます。



福島高度集成材製造センターの外観



説明会の様子

森林管理署×七

磐城森林管理署における 現地検討会等の取組

磐城森林管理署



磐城森林管理署では、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」に向け、計画的な伐採や再造林を通じて森林資源の適正な管理・利用、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を図る「新しい林業」に向けた取組を展開しています。

これらの取組について、技術の習得を推進するとともに、地域の関係機関の共通認識を醸成するため、福島県、管内市町村、請負事業者等の関係者を含めた現地検討会を実施しています。

以下に、今年度実施しました現地検討会の概要を紹介いたします。

1 ナラ枯れ防除事業「大量集積型おとり丸太」効果現地検討会

近年、福島県浜通り地区では、コナラをはじめとしたナラ類の広葉樹が集団で枯損する「ナラ枯れ」被害が急速に拡大しております。

このナラ枯れ被害は、ナラ類の樹木に、体長五ミリの小さな昆虫、「カシノナガキクイムシ（カシナガ）」がせん入し、病原菌を伝播することによって起こる樹木の伝染病による現象であり、最終的には枯死に至る場合もあります。

このような被害の対策として、同地区で初めて「おとり丸太」による

防除対策を実施し、この「おとり丸太」の効果の検証と関係者への技術普及、引いては地域が連携した防除体制の構築を目的として、「ナラ枯れ防除事業「大量集積型おとり丸太」効果現地検討会」を実施しました。

当日は、おとり丸太に多くのおがくずとせん孔が見られ、カシナガの成虫がおとり丸太の中にあることがわかり、参加者はその効果を実感できました。

2 多目的造林機械による林道維持修繕現地検討会

造林事業の低コスト化や、地拵・下刈等の労働強度の低減に資することを目的に開発された、多目的造林機械（商品名…「山もつとジョージ」）を林道の維持修繕（除草工等）にも活用することとし、特に、震災から十年が経過した旧避難指示区域などの雑灌木が繁茂した林道等での活用を検討するため「多目的造林機械による林道維持修繕現地検討会」を実施しました。

当日は、あいにくの雨でしたが、参加者は、山もつとジョージにより効率よく雑灌木を刈り払える様子を目の当たりにすることができました。

3 採材及び生産性向上現地検討会

我が国の林業においては、搬出コストが高く、木材価格の低迷等により林業経営が厳しい状況にあります。林業によるグリーン成長を実現するためには、林業の生産性向上を通じて収益性の向上を図り、森林資源の循環利用を促進するとともに林業経営者の育成や原木の安定供給体制の構築を図る事が課題となってきました。

当日は、生産事業者と製材・市場関係者との間でA・B材の見立ての違いが指摘され、収益性の向上につながる採材のあり方について、共通認識ができました。

これらの課題に対応するため、素材生産事業における素材のより有益な利用・販売を促進することや請負事業者の生産性向上に資することを目的として、「採材現地検討会」及び「生産性向上現地検討会」を実施

これからも、磐城森林管理署では、森林・林業の様々な課題への取組や新技術の開発を行い、現地検討会を実施することで、民有林、国有林が一体となつて、より安全で計画的かつ効率的な森林施業を行い、森林の持つ多面的機能を十分に発揮出来る健全な森林の整備を図るなど、林業によるグリーン成長に貢献するための取組を進めて参ります。



ナラ枯れ防除事業「大量集積型おとり丸太」効果現地検討会



多目的造林機械による林道維持修繕現地検討会



採材及び生産性向上現地検討会



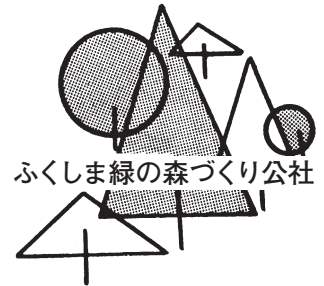
団体のページ

【令和3年度事業計画】

一般造林事業	下刈	5ha	1,310千円	
	除伐	3ha	1,066千円	
	保育間伐	(搬出なし)	196ha	79,902千円
		(搬出あり)	151ha	174,732千円
		計	355ha	257,010千円
	ふくしま森林再生事業	74ha	92,630千円	
作業路開設		19,330m		
	(間伐作業路)	15,100m	保育間伐に含む	
	(ふくしま森林再生)	4,230m	再生事業に含む	
作業路補修	5,000m	15,000千円		
計		364,640千円		

公社だより

令和3年度事業について



1 今年度事業の実施状況

今年度における森林整備事業の計画は、表に記載のとおりです。契約件数は四二件で、十二月末現在、全ての箇所において事業が進んでおり、うち二二件は、検査が完了しています。一昨年からの新型コロナウイルス

による影響が心配されましたが、現時点において大きな影響を受けず、また、コロナ禍の中で木材価格の上昇も見られるところですが、立木の林齢構成から、低質木を主体に間伐事業を進めているため、その恩恵はあまり受けていない状況です。

2 補助事業等の活用状況

当公社で実施している森林整備事業は、一般造林事業とふくしま森林再生事業、二つの補助事業を活用し、極力、借入金や自己資金の持ち出しが少なくなるよう努めています。一般造林事業は、標準単価で計算した経費に補助率を掛けて補助金額が算出されますが、公社造林地は条件の悪い奥地が多いことから、実行経費が標準経費を上回り、実質的な補助率は、約六〇割となっております。

一方、ふくしま森林再生事業は、実行経費に対し補助率を掛けて補助金額が算出されるため、森林整備については、一律九〇割の補助となっております。ただし、放射能の影響の低下とともに、採択できる箇所が徐々に狭まってきている状況です。

なお、補助残については、その一部については、日本政策金融公庫の無利子貸付金である森林整備活性化資金が活用できるよう森林整備合理化計画の認定を受け、事業を進めています。

3 有利な販売対策

現在、間伐している木材は低質材が主体となるため、市場における販

売では、良質材の価格は見込めないことから、運搬経費や販売手数料等の経費を考慮して、近年は、土場売りや単価契約により収益を上げる方法に移行しています。その背景としては、バイオマス発電などの稼働により、燃料材としての間伐材の需要が増加してきていることなどが上げられます。

なお、ふくしま森林再生事業の現場で運搬経費等も補助の対象となる箇所においては、市場価格等の動向等を聞き取りながら、採材の検討を行い、市場での委託販売により収益を確保するよう努めています。

4 広報活動

当公社の活動状況は、これまでもホームページでご覧いただけましたが、今年度からは、新たに紙面版の「公社だより」を発行していきます。経営改善計画（第二次緑の森づくり新生プラン）の取組状況や公社造林の現状についてお知らせいたします。この紙面版の「公社だより」は、ホームページ (<http://www.fuku-rin.jp/>) にも掲載しておりますので、ご覧頂ければ幸いです。



木の文化を育む ③4

女子が楽しむ里山の集い(林業女子会@福島)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

林業女子会は二〇一〇年に京都で生まれた任意団体です。林業に関わる仕事や活動をしてきた女子たちが、SNS等を介して集まり「女子のチカラで林業を盛り上げたい！」と発足しました。こうした林業女子会の存在や活動内容を知り、福島でも、ぜひ同会を作りたいという一人の女性の想いから、林業女子会@福島は誕生しました。

○里山の魅力と現状を伝える

林業女子会@福島は二〇一六年八月十一日(山の日)に設立されました。代表 鈴木美也子さん(林業事業体勤務)をはじめ、現在十八名の会員が自由に様々な活動に参加し、里山の魅力のみならず地元の美味しい食事、温泉、人との繋がりなどを通して、森や木、人々とのさまざまな関わりや楽しみ方を紹介しながら、林業への興味関心の裾野を広げる活動をしています。

「一人でも多くの人に里山の素晴

らしさと現状を伝えると共に、地元の良い良さをさらに見出していきたい」と鈴木さん。そうした想いの源には、一、福島のを美しく後世に遺す二、山の恵みに感謝する 三、山を綺麗にする、という林業女子会@福島の三つの理念があります。

○清掃登山の楽しみ

林業女子会@福島では、季節の移ろいと様々な発見を楽しむながら定期的に信夫山の清掃登山を行なっています。信夫山は古くから山岳信仰の山と崇められ、ハイキングスポットとしても人気があります。ドクダミの群生やコンクリートから逞しく伸びている幼木、道路沿いに美しく植えられたヤマブキなど、四季折々の様々な草花を発見することも清掃登山の楽しみの一つです。毎年五月には、クマガイソウの里まつりへ足を延ばし、クマガイソウやニリンソウ、ヤマブキノウなどの山野草鑑賞も恒例となっています。

○信夫山文庫

信夫山文庫は信夫山のふもとにある昔懐かしい雰囲気を感じられる古民家カフェです。林業女子会@福島の発足会の他、登山後のランチ会、活動報告会など、同会の活動の拠点にもなっており、沢山の木に囲まれながらさまざまなことに想いを馳せることができます。登山後に一息休むをとる場所としてもおすすめのカフェです。

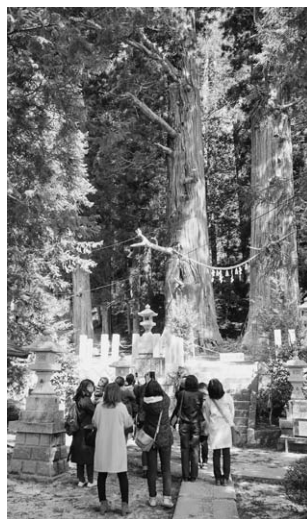
○ワークショップの開催

林業女子会@福島では、スペイン語で箱を意味する木製の打楽器「カホン」を作るイベントのほか、リース作りや木製スプーンづくりなど、

これまでさまざまなワークショップを開催しています。今後は、カホン作りとアーティストとのコラボ企画や山野草について学ぶワークショップ、目兼スギ(仏具山国有林内・いわき市勿来)の見学、森林整備体験等も予定しています。

○まとめ

林業女子会@福島は、女子らしく、楽しく、ゆるやかに「森や木、人々とのさまざまな繋がりを楽しみながら、林業への興味関心の裾野を広げる活動をしています。貴方もぜひ一緒に楽しみませんか。



巨木巡り(夫婦杉「小野町」)



信夫山清掃ハイキング



リース作り



名倉山登山



フォレストパークあだたら散策

林業女子会@福島 活動の様子

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(2021年10月15日現在)

(単位：㎡当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	10 (9~10)	1	(0~0)		10 (10~10)	0	10 (9~10)	1
		10~14		並	スギ	16 (15~16)	1	(0~0)		15 (13~16)	0	15 (13~16)	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	17 (14~18)	0	13 (13~13)	△1	20 (16~23)	2	17 (13~23)	0
				並	ヒノキ	21 (18~23)	0	(0~0)		25 (24~26)	0	23 (18~26)	0
		6.00	並	スギ	20 (16~22)	1	10 (10~10)	0	22 (21~23)	0	19 (10~23)	0	
			並	ヒノキ	29 (28~30)	1	(0~0)		30 (30~31)	0	29 (28~31)	0	
		20~28	3.65	並	スギ	15 (15~15)	0	11 (11~12)	0	15 (14~16)	0	14 (11~16)	0
			4.00	並	スギ	14 (14~15)	0	11 (11~11)	0	15 (14~15)	0	14 (11~15)	0
	1.80	並	アカマツ	11 (7~14)	2	(0~0)		11 (9~12)	0	11 (7~14)	1		
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	1	36 (36~36)	1
				並	米マツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	1	36 (36~36)	0
		28以下	4.00	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		34 (34~34)	1	34 (34~34)	1
並				アカマツ	(0~0)		(0~0)		34 (34~34)	1	34 (34~34)	1	
パルプ用材			並	マツ	7 (7~7)	0	(0~0)		(0~0)		7 (7~7)	0	
			並	広葉樹	10 (10~10)	0	(0~0)		(0~0)		10 (10~10)	0	

九月の原木市場への入荷量は、前月比四%減(前年比三三%増)の一九、七三九立方メートルとなっている。販売量は、前月比五%減(前年比三〇%増)の一九、六九四立方メートルとなっている。十月の価格は堅調となっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	0 (0~0)	0	7 (6~8)	0
	13~14		並	カラマツ	13 (12~13)	13	8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	14 (13~14)	14	10 (8~11)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

東白川郡内の民有林では被害は確認されていないものの、国有林では、昨年度、苗木の食害が発生しました。このため、今後、民有林への被害

十一月中旬、棚倉森林管理署から「八溝山周辺ではじめてニホンジカ一頭を捕獲した」との公表がありました。これまで管内での捕獲は、白河市や西郷村の東北自動車道以西のエリアのものが多く、同管理署によれば、東白川郡内の国有林での捕獲は初めてとのことでした。東白川郡は、比較的温暖で積雪量は少なく、一年を通じて餌となる植物があるため、ニホンジカにとつて、繁殖に適した環境ではないかと思われれます。シカが定着してしまうと造林地での苗木の食害や、樹皮剥ぎなどの被害の増加が懸念されます。さらに、生息密度が上昇すると、西日本などで見られるようなシカが好む植生が消滅したり、降雨等により森林土壌が流出するようなケースも想定されます。



ニホンジカについて

県南農林事務所森林林業部 小野 武彦

防止に向けて、県南農林事務所では、棚倉森林管理署並びに東白川郡内の町村担当課と連携し、住民の方々からの目撃情報を吸い上げ、情報を共有する仕組みづくりに着手しています。

正確な情報を関係者が共有することで、ニホンジカへの有効な対策をたてることに役立てていく計画です。

(棚倉森林管理署提供)



(八溝山(棚倉町)で撮影したニホンジカ センサーカメラ 令和3年9月8日撮影)



(八溝山(棚倉町)で撮影したニホンジカ センサーカメラ 令和3年9月15日撮影)

はなしの
ひろば

雪見障子

築四七年の木造住宅の我が家にも歳神様をお迎えし、令和四年に改まった。我が家の和室は全て「摺り上げ雪見障子」になっている。この障子は、障子の下半分がガラスになっていて、障子を摺り上げていくと外の景色が見えてくる。雪が積もった景色が部屋からも楽しめることから、雪見障子といわれ、日本建築の技の「粋」な加減が伝わってくる。

今年の元日の朝、何気なくそれぞれの障子を少しずつ上げてみると、それぞれの角度から庭の景色が少しずつ開けていくことに気がつく。カーテンをさつと開けししまうのとは違って、障子を上げていくときの「間」がいい。元日の朝だからなおさらのこと、なんとも味わいがある。加えて、障子の和紙の白さが、新しい朝の光を柔らかくし、そして、その白さが醸し出す空気のとんと静謐なことか。

客間からは、白梅がみえる。薔はまだまだ小さいが、ポツポツと赤味を帯びてきた。薔に春意を感じるにはまだまだ固いが、早くも白梅の一輪、二輪が待ち遠しい。茶の間からは、ツグミがりんごを啄んでいるのが見える。野鳥のために六ツ割のリングを庭に置いたものだが、啄むごとに安定しないりんごがユラユラと動く。が、上手に啄んでいる。見飽きない。

一気に障子を開けていたら、この白梅の薔やツグミには気がつかなかっただろう。今年の日常がまた始まるが、この静謐さのなかで、今年は、自分の日常を少し違う目で、少し違う角度から見てみたいと思うのである。(都)

表紙の写真



「真剣な眼差し」

第18回ふくしま森林・林業写真コンクール特別賞(高校生以下の部)(県森林・林業・緑化協会賞)受賞者 鈴木友梨さん(福島市)撮影場所:須賀川市
コメント:このコンクールを通して、林業や祖父の仕事について知れて楽しかったです。

編集 福島県内四森林管理署
発行 福島県森林・林業・緑化協会
発行人 福島県木材協同組合連合会
飯沼隆 福島県農林種苗農業協同組合
日光社印刷株式会社 (定価 一〇〇円)

お知らせコーナー

第46回福島県児童・生徒木工工作コンクールの表彰式を開催!

新型コロナウイルス感染症対策の影響から、様々な制限下で生活様式が変わり、子供たちは「楽しむ」ことも十分に出来ない状況となっています。

そのような中、「木を使って新しい楽しみを作る、共感する」という視点で表現をしてもらう事を願って、「ウッド・クラフト・エンターテイメント」をテーマに開催された第46回福島県児童・生徒木工工作コンクールには、県内の小学生から478点の応募がありました。

また、表彰式は令和3年11月27日に行わき市で行われ、上位入賞15作品の入賞者ら約50人が出席しました。

入賞者名簿

	賞	作品名	入賞者氏名	学校名・学年
最優秀賞	福島県知事賞 第1部	ドレスブーケ	和田 千広	いわき市立小名浜第二小学校 4年
	福島県知事賞 第2部	食事のキリン	安西 凜真	福島市立野田小学校 6年
優秀賞	福島県教育委員会教育長賞 第1部	むかしのくらし	木村 惺	いわき市立磐崎小学校 3年
	福島県教育委員会教育長賞 第2部	ウッド・ゴジラ	福島 悠太	いわき市立小名浜第三小学校 5年
	関東森林管理局賞	森のゆうえんち	花塚 桜	いわき市立中央台東小学校 6年
	いわき市長賞	波打ちぎわのカメ	舟山凜太郎	いわき市立泉小学校 2年
	福島民報社長賞	輝け聖火台	遠藤 正基	いわき市立御厩小学校 6年
	福島県木材協同組合連合会長賞	エンペラーペンギン	山田 泰士	いわき市立磐崎小学校 6年
	福島県林業会館理事長賞	サーフィンの男	和田 晃義	いわき市立小名浜第二小学校 1年
	NHK福島放送局長賞	ゴージャスシップ	根本 孝明	いわき市立平第五小学校 6年
	ラジオ福島社長賞	磯から顔を出したエビ	田口 元音	いわき市立小名浜第二小学校 6年
	福島テレビ社長賞	かめのおさんぽ	安西 来真	福島市立野田小学校 1年
	アクアマリンふくしま賞	ちようちんあんこう	斎藤 悠汰	いわき市立泉北小学校 6年
	福島県木材青壮年協会賞 第1部	八岐大蛇(ヤマタノオロチ)	井上 生暉	いわき市立泉小学校 3年
	福島県木材青壮年協会賞 第2部	森のお弁当	高野 妃那	いわき市立泉北小学校 6年



入賞者の皆さま



第1部門 最優秀賞作品「ドレスブーケ」



第2部門 最優秀賞作品「食事のキリン」

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



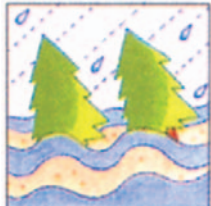
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



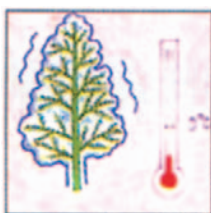
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
- または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8 コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



- (南東北支店) 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
- (本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
- (支 店) 札幌・東北・南東北・関東・中部・関西・中四国・九州

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリーンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シートハイバリア

ハチ退治

ハチノックL (巢処理用スプレー)
ハチノックS (携帯用スプレー)

新商品

猪レスSTOPテープ

ヒルノックWスプレー

ヒルノックW



レインボー薬品株式会社

東京都台東区上野 1-19-10 お問い合わせ TEL. 03(6740)7777 平日 9:00~17:00 (土日・祝日は休み)



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1